

答

「千の風になったあな
たへ贈る手紙」募集事
業やその作品集の全国発刊に
より、多くの人々の関心と呼
び、西条市という都市の存在
と名曲ゆかりのまちという新
たな魅力を全国に大きく発信
することができたものと考え
ている。

また、手紙の募集や優秀作
品の選考をはじめ、そのシン
ボルである白い羽のポストの
設置についても、市民の協力
の下に進められてきており、
本市の官民協働モデル事業と
して、更なる発展が期待され
る。特に、白い羽のポストを
設置した北海道七飯町や新潟
市、西条市の3都市間連携で
全国発信を行っており、希有
の成果を生んできたものであ
る。

今後は、全国発信の継続及
び拡大とそれに伴う本市への
来訪者の対応が重要であると
考えており、歌碑モニユメン
トの設置や未掲載作品を中心
とした定期的な市内巡回作品
展の開催、白い羽のポストを
活用した新たな散策ルートの
構築などについても検討して
いきたい。

どう考える？

市のごみ問題

問

東予一般廃棄物最終処
分場は、平成31年3月
末に閉鎖する予定であり、利
用者の利便性などから、西部
地域への新たな最終処分場の
整備について検討していく必
要があるのではないかと。

また、資源リサイクル活動
奨励補助金を実施団体に交付
しているが、ごみステーション
を使用する場合、契約業者
による回収なのか、資源ごみ
の持ち去り行為なのか、判別



東予一般廃棄物最終処分場

答

できないところがある。実施
団体を登録する際、ごみステ
ーションを使用しないよう条
件整備する考えはないかと。

現在、市内には、東部、
船屋、東予、丹原の4
か所に一般廃棄物最終処分場
がある。平成26年3月末現在
の全体残余容量は、8万3千
683立方メートルであり、年間
埋立量を約4千立方メートル
と推測すると、埋め立て可能
年数は約20年である。その一
方、道前クリーンセンターや
ひうちクリーンセンターなど
衛生施設の更新時期を迎えて
おり、総合的に判断すると、
新たに最終処分場を整備する
よりも、東予一般廃棄物最終
処分場をリニューアルし、延
命化を図るほうが合理的であ
ると考えている。

ごみステーションを使用し
た資源リサイクル活動につい
ては、実施団体に対して、市
の委託収集日と資源リサイク
ルの活動日が重ならないよう
お願いしている。収集日以外
であれば、ごみステーション
の使用に問題はないと考えて
おり、今後とも、地域のリサ

イクル活動を積極的に支援し
ていきたい。

活用の方策は？

河原津干拓地

問

平成25年10月に河原津
干拓地活用協議会が設
立されたことにより、干拓地
の活用方法について検討がな
され、新たな展開を期待する
ところであるが、協議会の開
催状況及び協議会からの報告
内容について問う。

また、協議会の報告を踏ま
え、今後、干拓地をどのよう
に活用していくのか。

答

河原津干拓地活用協議
会は、設立後、計4回
の会議を開き、活用について
さまざまな検討がなされた。

平成26年3月には、同協議
会から最終報告があり、農地
については、植物工場、施設
園芸、野菜などの露地栽培と
牧畜、景観作物、新規農業者
の研修施設、市民農園といっ
た活用方策が出され、これら
を複数組み合わせるベストミ
ックス方式が効果的であると
された。旧愛媛県水産試験場



河原津干拓地

については、陸上養殖施設及
び水産養殖等研究施設として
の活用方策が提案された。

また、同干拓地は、利活用
にさまざまな可能性を秘めた
貴重な地域資源であり、将来
の地域活性化につながる有効
活用の実現化に向け、総合的
な検討を継続的に実施するこ
とが望まれるとの提言をいた
だいている。

これらの提言を基に、事務
レベルの検討作業を行うとと
もに、具体的な活用の方向性
を広く関係者と議論していき
たいと考えている。